

琉球大学学術リポジトリ

Ryudai News Letter `19(Vol.24)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学 公開日: 2024-05-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 琉球大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002020346

News Letter

April 2019

Vol.24

琉球大学
広報誌

特集
I

新学長紹介

特集
II

新ユニバーシティ・アイデンティティの紹介



77.3

SO

24

資 雑 誌

琉球大学附属図書館



0020228019491



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

<http://www.u-ryukyu.ac.jp/>

Island wisdom, for the world, for the future.

表紙：
球陽橋での西田学長
ドローン撮影

[目次]

- 輝く琉大生 02
教育学部 3年 知花 真優子さん
- 特集Ⅰ 04
新学長紹介
- 特集Ⅱ 06
新ユニバーシティ・アイデンティティの紹介
- 研究者紹介 08
理学部 山田 広幸 准教授
伊藤 耕介 准教授
- ニューズピックス 12
- 基金だより 14

輝く琉大生

知花 真優子 さん

PROFILE

教育学部 学校教育教員養成課程 中学校教育コース
教科教育専攻
音楽教育専修 3年 コザ高校 出身

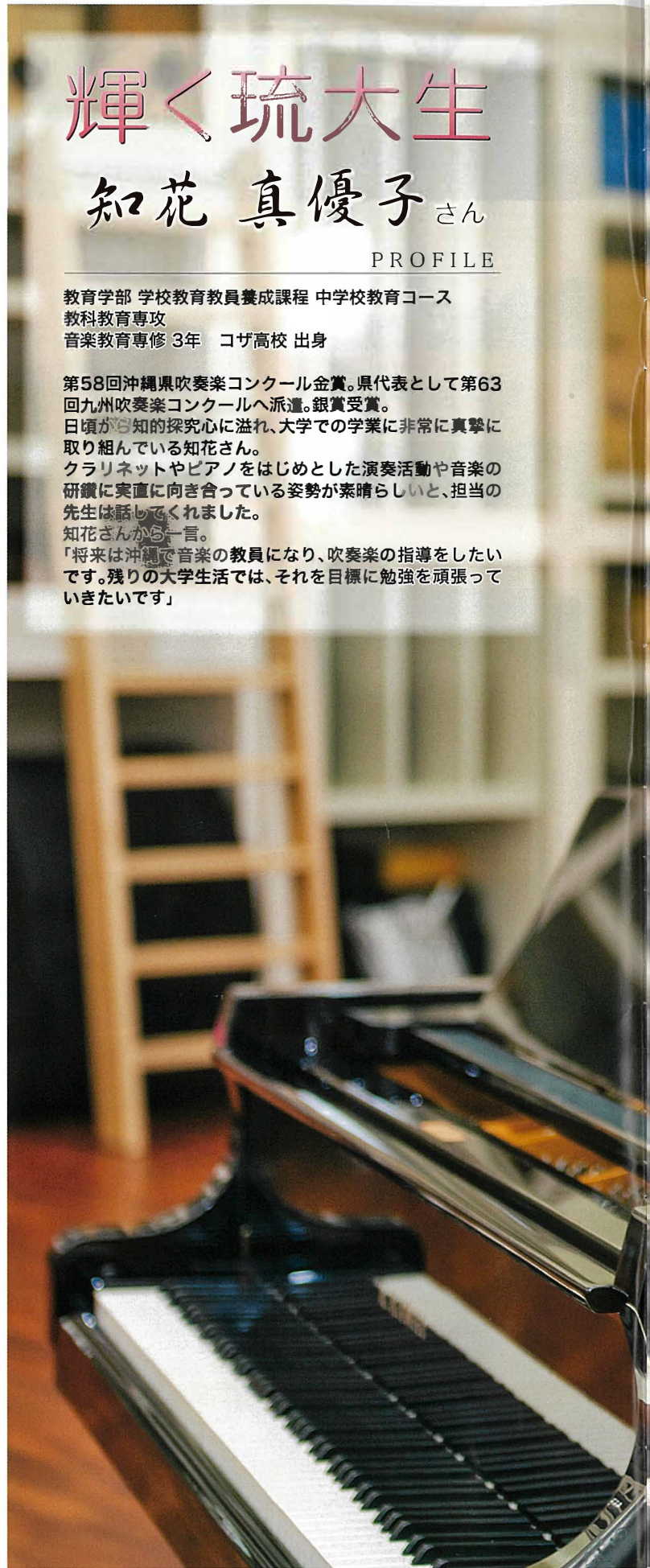
第58回沖縄県吹奏楽コンクール金賞。県代表として第63回九州吹奏楽コンクールへ派遣。銀賞受賞。

日頃から知的探究心に溢れ、大学での学業に非常に真摯に取り組んでいる知花さん。

クラリネットやピアノをはじめとした演奏活動や音楽の研究に実直に向き合っている姿勢が素晴らしいと、担当の先生は話してくれました。

知花さんから一言。

「将来は沖縄で音楽の教員になり、吹奏楽の指導をしたいです。残りの大学生活では、それを目標に勉強を頑張っていきたいです」







西田 睦

琉球大学
第17代学長

PROFILE

【略歴】

1972年 京都大学 農学部 水産学科 卒業
1977年 京都大学大学院 農学研究科
博士課程単位取得退学
1980年 琉球大学 理学部 助手
1991年 カリフォルニア大学 バークレー校
分子細胞生物学科 客員研究員
1992年 琉球大学 理学部 講師
1996年 福井県立大学 生物資源学部 教授
1999年 東京大学 海洋研究所 教授
2007年 東京大学 海洋研究所 所長
2013年 琉球大学 理事・副学長
2019年 4月より琉球大学 学長就任

【学位】

・農学博士（京都大学）

【専門】

・海洋生物学
・分子進化的生物学

【主な受賞】

・生態学琵琶湖賞(1998年)
・日本水産学会進歩賞(1999年)
・Artemi Lecturer Award(2005年)
・日本進化学会賞(2010年) など

【主な学会活動・社会活動】

・日本魚類学会会長
・日本学術会議連携会員
・国立大学共同利用・共同研究拠点協議会会長
など

学長メッセージ

豊かな自然と文化の中で、ユニークな学びを

琉球列島の沖縄に立地している琉球大学は、他地域の大学にはない特色にあふれています。その魅力ある特色の筆頭に挙げられるのは、何といても陸から海へと広がる亜熱帯の自然環境です。沖縄島北部の山原(やんばる)や西表島の森林生態系、マングローブ生態系、サンゴ礁生態系を思い浮かべてください。本学がいかにか豊かな自然に囲まれているかがわかるでしょう。

また、島嶼(とうしょ)という地域的特性の中で育まれた沖縄の歴史や文化も非常にユニークです。地理的にアジア・太平洋地域の要ともいえる位置にある琉球列島は、多くの国々と盛んに交流してきた歴史を有しています。琉球大学の教育・研究には、異なる言語や文化をもつ人々との交流を通して沖縄という地域が体得してきた知恵が活かされています。

本学は、この地域の人々の熱望により、戦後間もない1950年5月22日に首里城跡地に開学しました。そして、米国における「ランドグラント大学」のひとつであるミシガン州立大学の教授陣の協力を得て、「ランドグラント大学」のもつ「地域に根差し、地域のために」という精神を強く受け継ぐ大学として成長を遂げました。このような成り立ちにも、国際性と地域性を併せもつという本学の特色がよく表れています。

こうした特色は、琉球大学の教育・研究における強みとなっています。本学は、7つの学部、9つの大学院研究科、そして附属病院などを擁する総合大学として、基礎的な研究から社会に直接貢献する研究まで、幅広い研究に取り組んでいます。とりわけ、地域特性を活かした生物多様性研究、海洋科学・島嶼地域科学研究、健康長寿科学研究、琉球・沖縄文化研究などの分野における成果は、世界的にも注目されています。これらに代表されるオリジナルな研究に基づく教育こそ、学生の皆さんが深い学識と豊かな人間性を培い、地域や国際社会で活躍する人材として育つために不可欠であると私たちは考えています。

琉球大学のもう一つの魅力として、学生と教員の距離がとても近いことが挙げられます。ここには沖縄の「ゆい(結)」の精神が表れているように思われます。知的探究心にあふれる学生と、そうした学生の熱意に応える指導を目指す教員との親密な関係は、本学ならではのユニークな学びの機会を、さらに有意義なものにしてくれるでしょう。

本学は、建学の精神である自由平等・寛容平和を継承・発展させた3つの基本理念、すなわち「真理の探究」「地域・国際社会への貢献」「平和・共生の追求」のもと、「地域と共に豊かな未来社会をデザインする大学」でありたいと願っています。そして本学の強みを活かし、「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」であることを、目指しています。

その目標を実現するために、例えば、国境を越えた100以上の協定大学との交流、独自の基金による留学生派遣・受け入れなど、多彩な国際プログラムを充実させています。これらの制度を活用して知識を深め、実践を通して力をつけた卒業生たちは、県内、国内だけでなく海外にも活躍の場を拡げています。

これから入学する皆さん、そして在学生の皆さんには、本学の魅力を最大限に活かした学びを通して、これからの社会で大いに活躍する力を身につけていただきたいと思います。皆さんがそれぞれの目標を達成できるよう、琉球大学は一人ひとりを精一杯サポートしていきます。



平成31年4月1日
西田 睦

新ユニバーシティ・アイデンティティの 紹介

この度、琉球大学では、ユニバーシティ・アイデンティティ(以下UI)を表現したエンブレム、コミュニケーションマーク、タグライン、スクールカラーなどを作成しました。

本学は、2050年の創立100周年に向けた長期ビジョンとして、「地域とともに、豊かな未来社会をデザインする大学」及び「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」を掲げており、このビジョンに基づき、教育・研究・社会貢献機能を一層強化する予定です。

学章の他、今回新たに作成したエンブレム等は、本学の歴史・理念・ビジョンを踏まえ、その活動・成果・目指すところを可視化し、それを大学の全構成員で共有し、「琉球大学ブランド」として社会に浸透させ、長期ビジョン実現の歩みを加速することを目的としています。

琉球大学は、第二次世界大戦後の1950年、焦土と化した沖縄の首里城跡に設立されました。その沖縄の歴史と文化を踏まえて、学章には、琉球大学の基本理念「真理の探究」「地域・国際社会への貢献」「平和・共生の追求」のすべてが表現されています。

【琉球大学HP】 <http://www.u-ryukyu.ac.jp/>

学章の色は、琉球大学の叡智と未来を象徴する琉大黄金(くがに)としました。学章を土台としたエンブレムで、琉大黄金(くがに)を取り囲むのは、島嶼から世界へ続く海の色、琉大ブルーです。地域貢献はもちろんのこと、グローバルな多文化共生、世界の平和へも貢献する大学としての理念が、このエンブレムには表現されています。

コミュニケーションマークは、タグラインの「**Island wisdom, for the world, for the future.**」と連動しています。**多様性を持った琉球大学の叡智が、世界に広がっていく様**を視覚的に表現することで、本学が琉球諸島から世界中の人々と豊かな未来社会を共創する大学であることを発信しています。

関連する琉球大学学章規則、琉球大学ユニバーシティ・アイデンティティに関する規程、UIガイドラインについては、HPの紹介ページをご覧ください。

学章

1980年に琉球大学章規則で公式に設定されました。開学初期の1951年より多少の修正をされながら使用されていたマークが、本学創立30周年の機会に安次富長昭氏および宮良薫氏によってリデザインされたものです。芭蕉の葉と羽根ペンのイメージが核となっており、前者は「琉球諸島の伝統文化や自然」を、後者は「学問と自由」を象徴しています。この両者の組み合わせが「人の和と宇宙」を表す丸い円にまとめられています。



エンブレム

本学創立30周年時に作成されたマークをリデザインしました。
学章の周りを漢字表記の「琉球大学」と英語表記の「UNIVERSITY OF THE RYUKYUS」、そして創立年の「1950」で囲み、国内はもとより海外においても、一見ただけで琉球大学であると認識されうるエンブレムとしました。



タイプフェイス

本学の名称である琉球大学を表記する文字を規定しました。
琉球大学のエンブレムと併用する書体は、常にこのタイプフェイスを用います。

琉球大学

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

UNIVERSITY
OF THE RYUKYUS

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

琉球
大
学

琉大マーク

エンブレムとタイプフェイスを組み合わせ、これを琉大マークとして規定しました。



琉球大学

UNIVERSITY OF THE RYUKYUS



UNIVERSITY
OF THE RYUKYUS

琉大カラー

琉球大学のイメージをカラーとして規定しました。

琉大黄金^{くがに}

琉球大学が発信する叡智と
貢献する未来の象徴



琉大ブルー

海を介して世界へ広がる
国際性の象徴



コミュニケーションマーク

コミュニケーションマークは、気軽に琉球大学をアピールする目的で使用されるものとして作成されました。
琉球大学とそれが生み出す叡智を今回新たにスクールカラーとして規定する琉大黄金の円で表現し、それがそこから七つの海(世界)へ広がっていく様を表現したものです。

中心円を取り囲む七色の半円は、七つの海のほか、本学の持つ多様性(ダイバーシティ)をも表現しています。

タグライン

琉球諸島において磨いた叡知を世界へ未来へ展開していくという、琉球大学の目指すところを端的に表現したものです。



University of the Ryukyus

Island wisdom, for the world, for the future.

研究者紹介



日本人研究者初、 琉大の教員が台風の眼の中を観測！

2017年10月21日14時30分。超大型の台風21号が日本に上陸する直前、名古屋大学の坪木和久教授、琉球大学理学部の山田広幸准教授と、伊藤耕介助教(現准教授)が日本人研究者として初めて小型ジェット機にて台風の眼の中に侵入し、中心部分の直接観測に成功しました。これは名古屋大学、琉球大学、気象庁による共同プロジェクトで、ドロップゾンデという小型の観測機器を台風の眼やその周囲に投下し、風向、風速、気温、気圧、湿度のデータを集め解析するというもの。投下されたドロップゾンデは、機内のドロップゾンデ受信機に瞬時にデータを送った後、十数分で通信は途絶えてその役目を終えます。この日と翌22日の2日間で計26個のドロップゾンデを投下し、世界中の人が知らなかった多くの貴重なデータを取得しました。



ドロップゾンデ

琉球大学理学部 准教授

山田 広幸

(やまだひろゆき)

PROFILE

【略歴】

2000年 北海道大学大学院 理学研究科 修了
博士(理学)

【専門分野】

気象学

琉球大学理学部 准教授
気象予報士

伊藤 耕介

(いとう こうすけ)

PROFILE

【略歴】

2011年 京都大学大学院 理学研究科 修了
博士(理学)

【専門分野】

気象学

実は台風の眼に入ることは想定していなかった！？

山田 この時、僕は研究者として操縦席の後ろに座り、レーダー画面で雨の状況を見ながらパイロットにルートや観測ポイントについての指示を出していました。台風の眼の周囲には、壁雲といわれる厚い雲があり、その下には積乱雲の群れがあつて、通過するには危険が伴うと思われていたため、管制の許可が得られる最も高い高度で中心部分に近づいていきました。すると驚くことに機体の揺れも殆ど無く、シートベルトも要らないほどでした。そこで操縦士2名と協議しながら管制官の許可も得て進路を変更して眼の中に侵入。すーっと入っていくことが出来ました。実はこの時の飛行計画では、台風の眼の外を周回するだけの予定で、プロジェクトリーダーの坪木教授ですら台風の眼に侵入するとは思っていません。僕は侵入直前に搭乗していたメンバーに『眼の中に侵入するからシートベルトを締めるように』という指示を出しましたが――

伊藤 僕たちに聞こえたのは『シートベルトを締めてください！』というところだけ(笑)。突然の指示に緊急事態だと思い、慌てて席に着きシートベルトを締めた瞬間、視界がぱつと開けて僕は思わず叫んでしまいました。そしてそれがNHKのニュースで使われてしまったのです…！

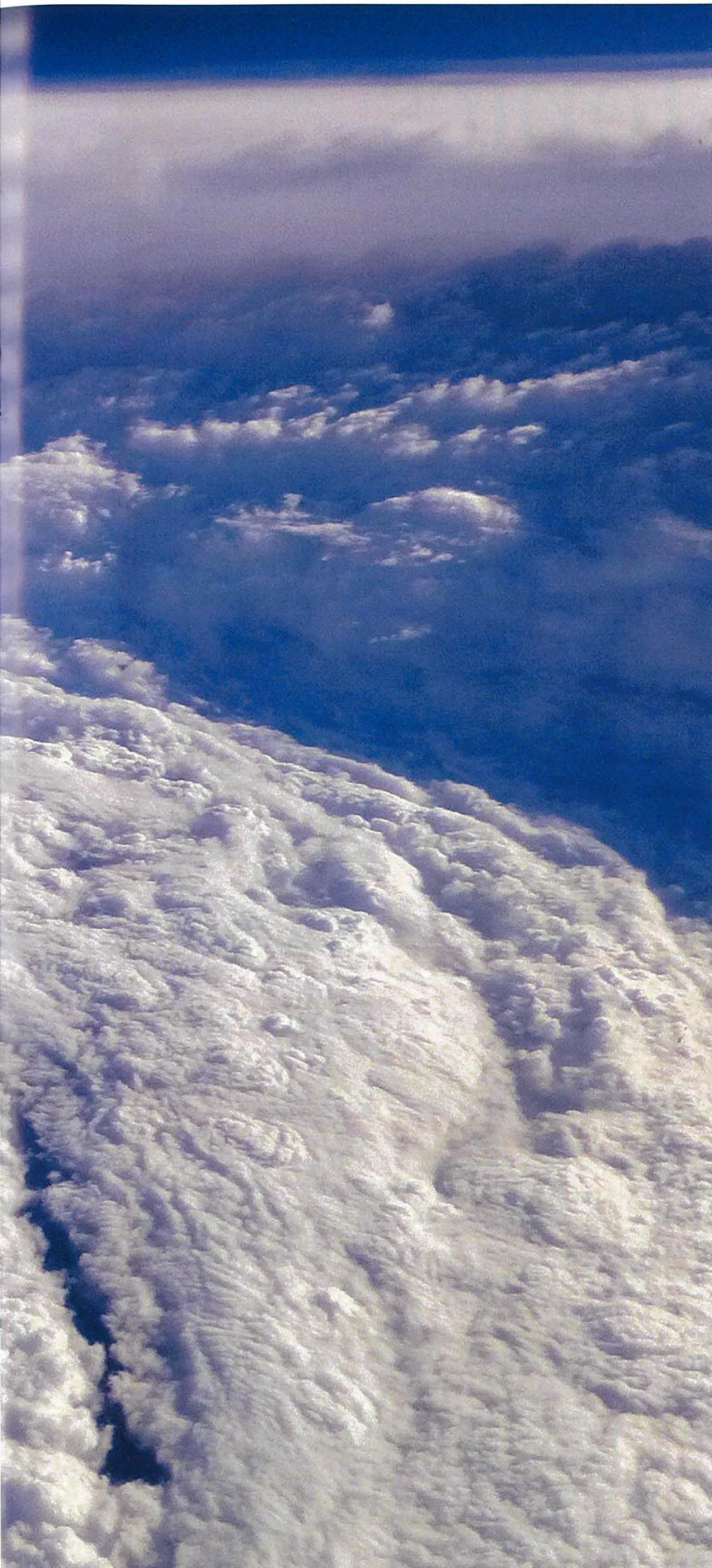
山田 調査機にはNHKのクルーも同乗して撮影していたのです。鹿児島空港に着陸したのが18時過ぎで、ターミナルに着いたのは18時15分頃。そこからリポーターの方は僕が貸したWi-Fiの細い回線でNHKに動画を送り、ニュース7のトップニュースにねじ込んでいました。翌日には衆議院選を控えていて、流さなければいけないニュースはたくさんあったはずなのに、ほんの数十分で編集して放映されたことに驚きました。





台風 の 眼

眼の中では下層に



関わる全員がプロフェッショナルだった

山田 この日操縦していた機長の景山さんは昔、南極で日食があった時に氷の滑走路に着陸した経験もある百戦錬磨なパイロットで、コ・パイロット(副操縦士)の金子さんは民放のテレビ局の取材で台風の眼に入った経験のある方。侵入を決める時、景山さんは揺れるのではと心配していましたが、金子さんが『行きましょう』と力強く言ってくれたので、躊躇いはありませんでした。ドロップゾンデを開発した明星電気の長浜さんやNHKリポーターの方も含め、この時搭乗していた全員がそれぞれプロフェッショナルだったからここまでうまく行ったのだと思います。

伊藤 僕は気象予報の研究をしていますが、山田先生は観測のスペシャリスト。この航空機による直接観測により、得られたデータで進路や豪雨の予測をさらに改善できる可能性が見えてきました。それから、米軍が1987年に航空機観測を終えてからこれまで、ニュースなどで発表される台風の強さは、過去のデータを元に衛星画像の雲パターンを照らし合わせた推定値なのですが、直接観測したものとは最大で15hPaほどの差があることも分かりました。特にデータの少なかった非常に強い台風に関して、正確なデータを得られたことを嬉しく思っています。

山田 これを国際学会で発表したら、皆さん口々に"Insane"(正気でない)と言っていました(笑)。民間のジェット機で台風の眼に入るなんて正気なのか、危険はないのかと。世界中の誰も台風の眼の付近がどのような状況なのか知らなかったのです。このプロジェクトは2020年まで続けられる予定で、2018年の観測からはドロップゾンデから送信されるデータを航空機で受信すると同時に、衛星通信を介して気象庁を経由し、GTS(世界気象通信網)にも送られるようになりました。我々の観測データが世界中で共有され、予報に役立てられているのです。

雲がかかり壁雲と呼ばれる雲が全体を壁のように取り囲んでいた。

UR Topics

第100回 琉大21世紀フォーラムを開催 ～未来社会はどうあるべきか～

国立研究開発法人理化学研究所の松本紘理事長を講師にお招きし、第100回琉大21世紀フォーラムが平成31年2月15日(金)、沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハにおいて開催され、学内外から約200名が参加しました。

講演では、科学革命の土台となった近代科学の歴史(13～19世紀)を踏まえて、学問が多様・複雑化している現代科学の現況、そして、科学の進化がもたらす未来についてお話していただきました。

今回のテーマである「未来社会」については、現在の電車内の風景(乗客全員がそれぞれで自身の携帯を覗いている風景)や、リアルな戦争という現場においてさえゲーム感覚でバーチャル化させてしまうという出来事が起きていることを例に挙げ、科学技術の進歩は「幸せ」なのか「不幸」なのかどうか、また、科学の進歩による経済成長で、地球・人類は滅亡に向かっているのではないだろうか、会場へ疑問を投げかけられました。

そして、未来の地球を支えるためには、現在の学術研究、基礎科学、技術開発のイノベーションに加え、新しい価値観・生き方が必要になるだろうという考えに立って、その新しい生き方の1つとして、ご自身の夢である「太陽系の開拓」を起点に、人類が「太陽系」そして「銀河系」へ進出するであろう未来社会を予想し、その社会に必要な既存の研究・技術や創造すべき研

究・技術に関して語っていただきました。

最後に松本理事長から、高校生に向けて、理系・文系の枠にとらわれず、興味を持って学び考えることを大切に、人間の持つ4つのガクリョク

- 『①学力(知識と俯瞰力)、
- ②額力(人の気持ちを感じ取り思いやる能力・強い意志)、
- ③顎力(コミュニケーションの能力・健康)、
- ④楽力(何事も楽しむ能力・人間力)』

を伸ばして欲しいとのエールが送られました。



琉球大学・ハワイ大学協定締結30周年記念等シンポジウム

本学とハワイ大学(米国)は、1988年11月に国際交流に関する協定書を締結し、今年で30周年を迎えました。

両大学間の国際交流協定締結30周年を記念して、2018年10月13日(土)、ハワイ大学マノア校韓国研究センターにおいて、ハワイ大学・琉球大学交流協定締結30周年記念等シンポジウムを共同開催しました。

本学とハワイ大学は、1988年に交流協定を締結して以来、幅広い分野での学術交流を積み重ねてきました。30周年記念シンポジウムでは、これまでの交流に尽力した功労者からプレゼンテーションが行われ、その足跡を振り返りました。

引き続き、学術シンポジウム(兼ハワイ大学マノア校沖縄研究センター創立10周年記念シンポジウム)を開催し、両大学の各分野の研究30年8月に文部科学省より採択を受けた「大学の世界展開力強化事業」キックオフ・シンポジウムを開催し

ました。基幹となるハワイ大学マノア校、グアム大学及び本学の3大学の担当教員から、各大学でのCOIL型(遠隔)教育の現状について、プレゼンテーションが行われ、上記3大学を中心とした13大学で行われる教育連携・学生交流プログラムを始動することができました。



「トビタテ！留学JAPAN地域人材コース」成果報告会開催！

トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム地域人材コース「沖縄からアジアへトビタテ！留学JAPANプロジェクト」の派遣留学生8名(琉球大学:4名、名城大学:2名、沖縄大学:1名、沖縄国際大学:1名)による成果報告会が、平成31年2月8日(金)に琉球大学で開催されました。

沖縄県内の大学をはじめ、ご寄附やインターンシップの受入れ等でご支援いただいた経済団体・支援企業、運営面で御協力いただいた内閣府沖縄総合事務局、沖縄県及び日本学生支援機構の関係者など、約60名が参加する中で、派遣留学生8名による成果報告の発表が行われました。

発表では、県内での事前・事後インターン研修やアジア諸国での留学生生活を通して、学んだことや感じたこと、自身の将来構想や将来像等を熱く語る表情や報告内容等から、学生が大きく成長したことがうかがえました。



JTA × 琉大 価値創造型インターンシップ記者報告会

平成30年12月10日(月)、本学と日本トランスオーシャン航空株式会社(JTA)は、価値創造型インターンシップの成果記者報告会を共同で開催しました。

本学とJTAは、これまででも学部単位で産学連携を進めてきたところですが、平成30年7月に、JTA、日本航空株式会社及び琉球エアコミューター株式会社の3社と本学が包括連携に関する協定を締結しました。

このことを受け、次世代育成と地域社会への貢献を図る新

しい取組として、本学とJTA両機関が連携し、従来のコースをより一層深化させた価値創造型インターンシップを約半年の期間で実施し、学生による機内安全啓発ビデオの制作・公開などを行いました。



地方自治体と琉球大学及び名城大学による 地域における雇用創出・若者定着に係る 協定締結について

本学及び公立大学法人名城大学は、平成30年7月17日(火)に宜野湾市・西原町・中城村と、平成30年10月4日(木)に金武町と、地域における雇用創出・若者定着に係る協定を締結しました。以上で本学は、1県13市町村と連携協定を締結したことになります。

本連携協定は、平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択された本学と名城大学のプログラム「新たな地域社会を創造する『未来叶い(ミライカナイ)』プロジェクト」事業及び各地方公共団体が策定する「ひと・まち・しごと総合戦略」の推進のため、各市町村における雇用創出・若者定着に関する目標を定め、その達成を図ることを目的として締結するものです。



平成30年度 琉球大学キャリア教育センターと 保護者等との懇談会を開催

キャリア教育センターでは、琉大祭の開催にあわせて、平成30年9月22日(土)、23日(日)の2日間、最近の本学における就職状況について、大学と保護者等との相互理解を深めることを目的として、学部1～3年次学生の保護者を対象に「平成30年度琉球大学キャリア教育センターと保護者等との懇談会」を開催しました。

多くの保護者等(22日77名、23日104名)に県内外から参加いただきました。



基金だより

琉球大学では、学生支援・教育研究活動を強化し、地域社会・国際社会へ還元していくことを目的とした琉球大学基金による事業を実施しております。本基金の趣旨にご賛同いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

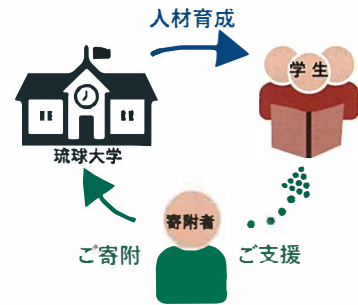


第17代学長
西田 睦

基金による事業

基金の主な用途に応じて、以下の寄附先からお選びいただけます。

琉球大学一般基金	教育研究等の大学運営全般への寄附
琉球大学修学支援基金	経済的に修学が困難な学生への給付型奨学金等の支援
琉球大学QUEST基金	学生の教育研究活動事業(国際交流等)の支援
琉球大学結転生(ゆいまーる)基金	シングルマザー雇用による経済的自立支援/子どもの就学援助
琉球大学うない女性研究者・リーダー育成基金	地域における男女共同参画推進及び、次代を担う女性人材の育成支援 等
琉球大学沖縄健康医療推進基金	上原地区キャンパスの移転に伴う、より快適で安全なキャンパスの整備事業 等



寄附方法

オンラインによるご寄附

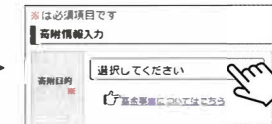
STEP 1

琉球大学基金Webサイト (<http://www.kikin.jim.uryukyu.ac.jp/>) より、「寄附をする」をクリック。



STEP 2

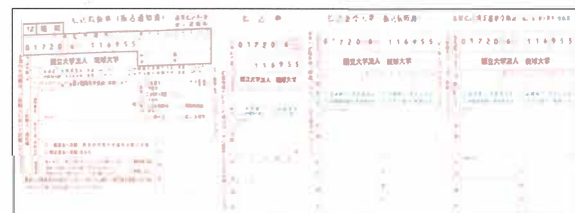
「寄附情報入力画面」から、寄附先の基金をお選びいただき、引き続き寄附情報をご入力の上、クレジットカードによる決済をご利用ください。



振込によるご寄附

STEP 1

琉球大学基金室へメール又は電話でお問い合わせください。払込取扱票(振込用紙)を郵送いたします。



STEP 2

払込取扱票に寄附額等の必要事項を記入の上、ゆうちょ銀行・郵便局又は取扱金融機関にてご利用ください。

税制上の優遇措置

税制上の優遇措置

本基金へのご寄附は、「寄附金控除」の対象となり、個人からは「所得控除」、法人からは「全額損金算入」が適用になります。なお、修学支援基金への個人からのご寄附のみ、従来の「所得控除」に加えて「税額控除」も適用になります。確定申告の際に控除額の有利な方をお選び下さい。

芳名簿

琉球大学基金へ多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。本号では、平成29年4月から平成30年12月までに、ご寄附いただいた際に同意をいただいた皆さまのご芳名(五十音順・敬称略)を掲載させていただきます。今後とも琉球大学基金をよろしくお願い申し上げます。

《法人》

金秀グループ 琉球新報社 琉球大学生生活協同組合

《個人》

新垣 幸子	國吉 幸男	武田 昌則	中村 拓郎	Matsuro and Tsuruko Nakasone
植田 聡	久保 俊輔	田里 友治	仲本 律雄	宮尾 徹
大城 肇	斉藤 美加	玉城 佑一郎	西田 睦	村上 呂里
大嶺 和歌子	斉藤 実	玉城 喜章	西村 幸一	本村 真
大湾 知子	篠原 里美	照屋 尚子	新田 早苗	山里 明美
垣花 学	島居 剛志	Toma Claudia	殿岡 裕樹	山本 好
川村 篤	志茂 和音	徳田 安春	花城 梨枝子	吉野 剛
菊澤 拓	城間 弘充	中村 拓郎	林 涉	吉本 靖
許田 正勝	菅井 尚子	内藤 貴明	藤田 次郎	湧川 均
桐島 孝	鈴木 極	中川 鉄水	外間 花怜	
金城 福康	高尾 勝子	中村 真也	外間 なるみ	
金城 光彦	高山 和則	仲村 大	前原 武子	

他 802名
(合計861名)

支援者の声

未来への夢と希望を抱いた学生を後押しするために、少しでも力になればと思います。
(法人・団体)

地域の発展は、ひとりでも多くの若者が大学で学ぶことから！これからの沖縄を担う方々へ、わずかですが寄附で応援します。
(一般の方)

社会で活躍している先輩方に続いて、大きく羽ばたいてください。資金がないことで諦めていた事柄にチャレンジすることを支援できて嬉しいです。学生さんの将来に期待しています。
(本学教職員)

学生の声

これまで、学費や研究費を賄うために研究よりもアルバイトを優先させてしまい、指導教員にも心配をかけていました。今回、学資金支援の給付を受けることができ、より研究に充てる時間が確保できます。今後は、より一層「社会の一助となる研究とは何か」を考え、邁進していきます。
(人文社会学研究科 学生)

寄附していただいた皆さまの思いに恥じぬよう、今後も卒業まできちんと学業に専念し、就職後も様々な資格試験や仕事に挑戦して、社会に少しでも貢献できるよう頑張ります。
(工学部 学生)

お問い合わせ先



琉球大学基金室

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1
TEL: 098-895-9013
e-mail: kikin@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

詳細は琉球大学基金WEBサイトをご覧ください。URL: <http://www.kikin.jim.u-ryukyu.ac.jp>

琉球大学開学70周年記念事業募金

2020年、琉球大学は開学70周年を迎えます。この記念すべき節目にあたり、琉球大学の発展を期する事業として、また地域社会の発展に貢献しうる事業として「琉球大学開学70周年記念事業」を実施いたします。この事業を通じて、琉球大学は地域社会や国際社会で活躍できる人材の育成に取組むとともに、豊かな社会を皆さまと共創して参ります。

何卒、趣旨にご賛同くださり、格別のご支援並びにご協力を賜りますようお願い申し上げます。



右) 国立大学法人琉球大学 第17代学長 西田 睦
 左) (公財)琉球大学後援財団理事長 (株式会社琉球銀行代表取締役会長) 金城 棟啓
 中) 琉球大学同窓会 会長 (沖縄石油ガス株式会社代表取締役会長) 幸喜 徳子

大学発ベンチャーの支援



未来の起業家を
育てる

国際交流シンポジウムの開催



琉球大学から
アジア・太平洋
地域へ

地域連携の企画展



地域の活性化
企業と琉球大学の
連携

奨学・教育研究・国際交流 奨励事業の拡充



社会に貢献できる
人材の育成

記念式典及び記念誌の発刊



キャンパス環境の整備



自然あふれる
憩いの場の
遊歩道

当記念事業へのご寄附は、税制上の優遇措置が受けられます。個人からのご寄付は、確定申告の際に「税額控除」「所得控除」のどちらか控除額の有利な方をお選びいただけます。

法人からのご寄附は、一般寄附金の損金算入限度額とは別に、特別の損金算入限度額が設けられており、この分には法人税が課税されません。

【募金方法】口座振込によるご寄附が利用いただけます。所定の払込取扱票(振込用紙)がお手元がない場合は郵送いたしますので、下記へお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先

※土・日・祝祭日を除く
午前10時～午後5時まで

- 公益財団法人 琉球大学後援財団(募金推進本部事務局) ☎098-895-5793
- 国立大学法人 琉球大学 基金室 ☎098-895-9013
- 琉球大学同窓会 事務局 ☎098-895-8039

編集後記

陽春まぶしく、新しい門出の季節です。
 日本は、改元という歴史的な節目を迎えることとなり、新しい時代に胸が高鳴る思いです。
 琉球大学においても、大城肇 前学長が6年の任期を満了され、4月より、西田睦 新学長のもとで新しい体制がスタートいたしました。
 また、新しいエンブレムやスクールカラーが決定し、そのようなユニバーシティ・アイデンティティに基づ

いて、公式ホームページを全面リニューアルいたしました。是非ご覧ください。
 広報係におきまして、大きな変化に乗り遅れることなく、心機一転、決意を新たに精進したいと思います。今後とも、学生の皆様や保護者の皆様に親しまれる広報を目指し、いっそう邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
 総務部 総務課 広報係 松本 琢也

News Letter

Vol.24

2019年4月発行 琉球大学総務部 総務課 広報係



〒903-0213
 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
 TEL.098-895-8175
 kohokoho@acs.u-ryukyu.ac.jp
 http://www.u-ryukyu.ac.jp/